上部消化管内視鏡検査（説明と同意書）

平成　　年　　月　　日

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿様　　歳　　ID No.　[　　]

①検査目的

食道、胃、十二指腸にできる病気（がん、炎症、潰瘍、ポリープなど）を見つけ、適切な治療方針を 考えるために行います。

②検査方法

検査の際には、あらかじめ嘔吐反射を防ぐためにのどに麻酔を行います。まれにこの麻酔薬による アレルギー反応がありますので、以前に内視鏡検査や歯の治療で気分が悪くなったことがあればお申し出ください。次に胃腸の動きを和らげるための注射薬、鎮静薬や鎮痛薬を使用することがあります。緑内障、前立腺肥大、心臓病などのある方はこれらの薬の使用を控えることがありますので、お申し出ください。鎮静薬に関しては、別紙説明書、承諾書がございます。鼻または口から内視鏡を挿入して食道、胃、十二指腸を観察します（病理組織検査）。組織を採取する際の痛みはありませんが、少量の出血を伴います。血液をさらさらにする薬（ワーファリンやバイアスピリンなど）を服用中の方は必ずお申し出ください。さらに検査中の施行医の判断により精密検査や治療手技（色素散布や止血術、異物摘出術など）が必要と判断され、手技を追加する場合がありますのでご了承ください。

③起こりうる合併症

・上述の通り、胃腸の動きを和らげるための注射薬や麻酔薬、鎮静薬や鎮痛剤を使用することがあります。これらの薬剤により稀に発疹、嘔気などの副作用が起きる事があります。また、検査終了後も薬剤の種類によっては目の焦点が合わなかったり、眠気が持続することがあるので十分にご注意ください。

・上部消化管内視鏡検査や生検検査によって稀に出血や穿孔（やぶけて穴があくこと）、ショック（血圧が低下すること）などの重篤な偶発症を起こすことがあります。これらの偶発症は、日本消化器内視鏡学会が調査した全国集計によると、1998年から2002年までの5年間に発症した頻度は0.012％（およそ1万人に1人）、偶発症による死亡率は0.00076％（およそ100万人に8人）と報告されております。

・万が一重篤な合併症を発症した場合は、外科的処置を含めた最善の処置を早急に行います。

以上行った説明に関して、他の医療機関で意見を聞いていただくことができます。

説明者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　同席者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

以上の内容を担当医より説明を受け、十分に理解し、必要であると判断しましたので

上記治療に承諾いたします。

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（本　人）　　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（　　）